

湖北広域行政事務センター
新一般廃棄物処理施設整備事業に係る
環境影響評価準備書の概要

令和 3 年 5 月

湖北広域行政事務センター

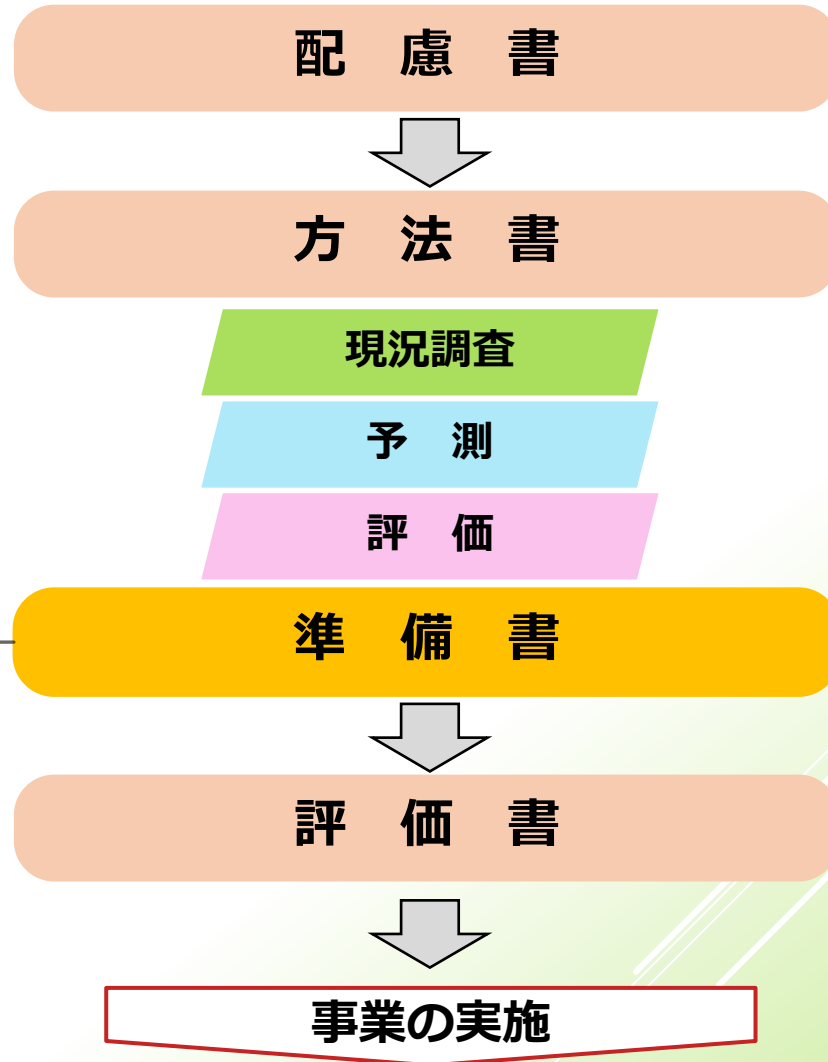
■ はじめに

- 1 事業の目的・内容
- 2 環境影響評価の項目
- 3 現況調査（現地調査）
- 4 影響の予測・評価
- 5 環境保全措置・事後調査
- 6 準備書の縦覧、意見書の提出について

環境影響評価（環境アセスメント）は、事業が環境に与える影響を調査・予測・評価することで、環境保全の観点からより良い事業計画を作り上げていく制度。

今回：方法書およびそれに係る住民意見や滋賀県知事の意見等を踏まえた環境の現状調査、影響の予測・評価を行い、その検討結果をとりまとめた「**環境影響評価準備書**」を作成。

今後は、準備書に対する意見等を踏まえて、評価書を作成していく。



	施設名称	所在地	処理方式等	処理能力	竣工年月
焼却施設	クリスタルプラザ	長浜市八幡中山町200番地	ごみ焼却処理施設（ストーカ方式）	168 t/日 (3.5t/h×2炉:24h 運転)	平成11年3月
	伊香クリーンプラザ (休止中)	長浜市西浅井町沓掛1313番地1	ごみ焼却処理施設（ストーカ方式）	28 t/日 (1.75 t/h×2炉:8h 運転)	平成9年3月
リサイクル施設	クリスタルプラザ	長浜市八幡中山町200番地	リサイクル施設 (圧縮梱包・一時保管)	圧縮梱包：1 t/h	平成11年3月
	クリーンプラント	長浜市大依町1337番地	不燃ごみ・粗大ごみ 処理施設（破碎選別）	40 t/日（5h）	平成2年3月
	伊香クリーンプラザ (休止中)	長浜市西浅井町沓掛1313番地1	破碎選別・資源化施設 (破碎選別、圧縮梱包・一時保管)	破碎選別：5.0 t/日 (5h運転) 資源選別：3.0 t/日 (5h運転)	平成9年3月
し尿処理施設	第1プラント	長浜市湖北町海老江1049番地	し尿処理施設 (低希釈二段活性汚泥法＋高度処理)	157 kℓ/日	昭和59年3月

■ 事業者の名称等

- 事業者の名称：湖北広域行政事務センター
- 代表者の氏名：管理者 若林 正道
- 主たる事務所の所在地：長浜市八幡中山町200番地

■ 事業の名称

- 名称：湖北広域行政事務センター 新一般廃棄物処理施設整備事業
- 種類：廃棄物の処理及び清掃に関する法律第8条第1項に規定する一般廃棄物処理施設であって焼却により処理する施設の設置の事業

1. 事業の目的・内容

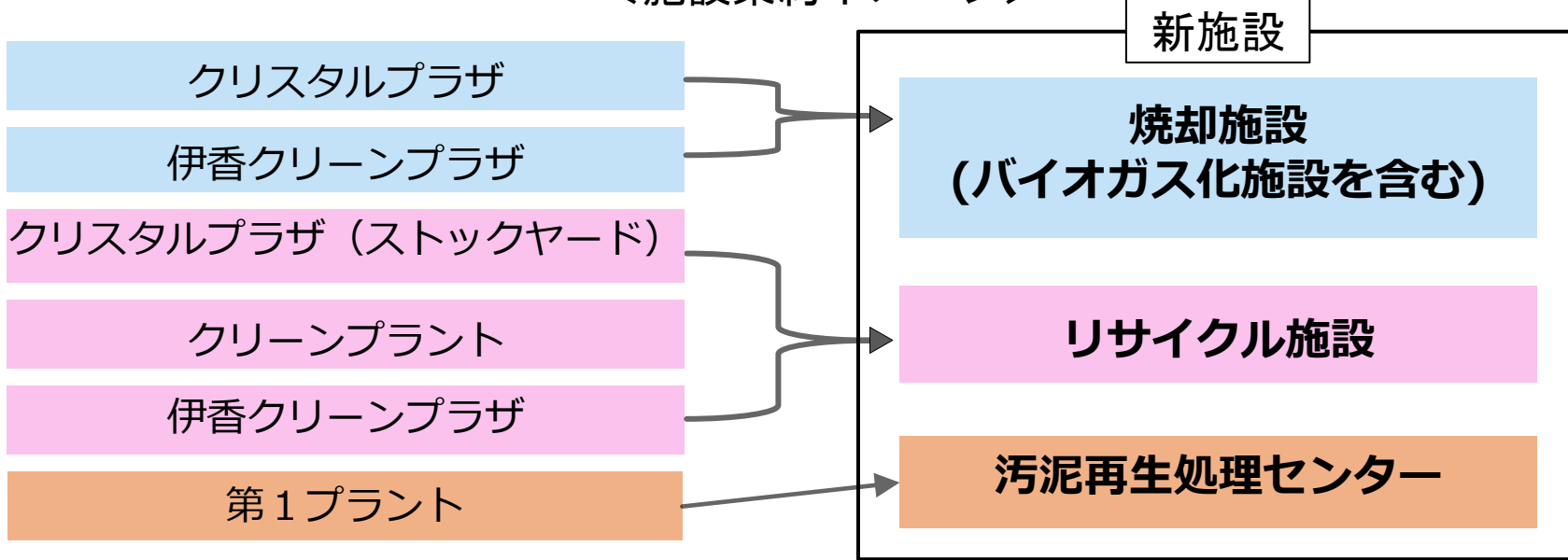
事業の目的

対象事業の目的

長浜市、米原市の2市で組織された湖北広域行政事務センター（以下「センター」という）では、可燃ごみ処理施設、不燃・粗大ごみ処理施設、し尿処理施設および斎場の設置・運営を担っている。

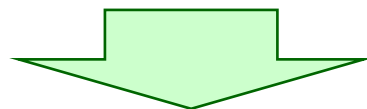
これらの施設は市民生活に必要不可欠なものであるが、施設の耐用年数を大きく超えており建物および機器の老朽化が著しいことから、新たな「**焼却施設（バイオガス化施設を含む）**」、「**リサイクル施設**」および「**汚泥再生処理センター**」を事業実施区域内に集約し、整備を行うものである。

<施設集約イメージ>



■ 施設整備に関する基本方針の策定

国の方針を具体化するため、「**湖北広域行政事務センター施設整備に関する基本方針**」を策定（平成28年3月改訂）。

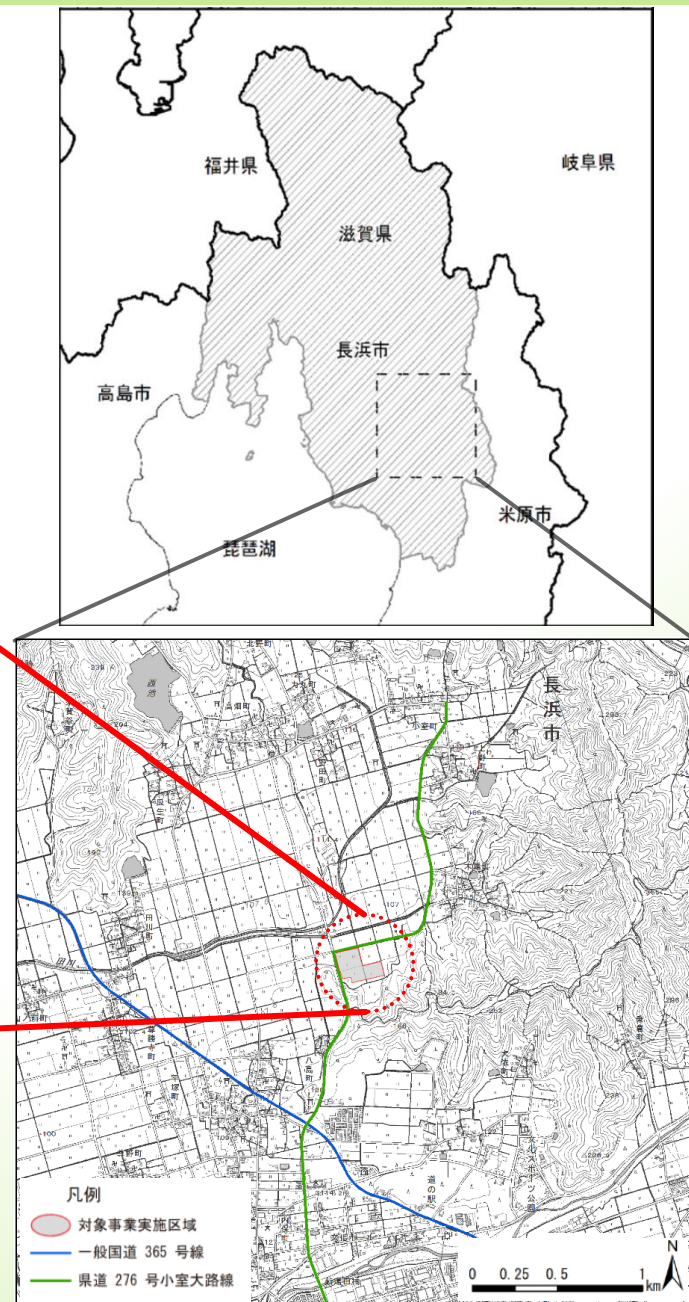


■ 用地の取得

- 建設候補地の公平・公正な選定を行うため、「湖北広域行政事務センター新施設建設候補地選定委員会」を付属機関として設置し、延べ10回にわたり審議。
- 最も評価の高かった長浜市木尾町地先の用地を建設候補地とすることに決定。（平成29年6月）
- センター議会の議決を受けて、新施設建設用地として取得済み。（平成30年1月）

位置：長浜市木尾町字込田

面積：約 3.5 ha



- 環境保全に配慮した安心な施設
- 安全で安定的な稼働ができる施設
- 循環型社会形成に貢献できる施設
- 市民に親しまれる施設
- 経済性に配慮した施設

■ 新一般廃棄物処理施設整備基本計画

湖北広域行政事務センターが整備を予定している新一般廃棄物処理施設（熱回収施設、リサイクル施設及び汚泥再生処理センター）について、基本条件の設定を行い、環境保全対策、エネルギー利用計画、財政計画・整備計画、その他施設整備に係る項目等について取りまとめた施設整備基本計画として策定しました。

種類	施設種別	施設規模 (処理能力)
滋賀県環境影響評価 条例の対象施設	ごみ焼却施設	145t/日
関連施設 (条例対象外だが、対象施設と 一体的に環境への影響を評価 する施設)	バイオガス化施設	50t/日
	リサイクル施設	22t/日
	汚泥再生処理 センター	49kℓ /日

施設整備事業スケジュール

熱回収施設を令和10年度に供用開始できるよう、各項目を順次進めて行く。

年度		令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
項目								
環境影響評価								
事業者選定								
実施設計・建設工事	熱回収施設			実施設計 建設工事 試運転				
	リサイクル施設			実施設計 建設工事 試運転				
	汚泥再生処理センター			実施設計	建設工事	試運転		

※ 施設の整備スケジュールは、状況により変更となる場合がある。

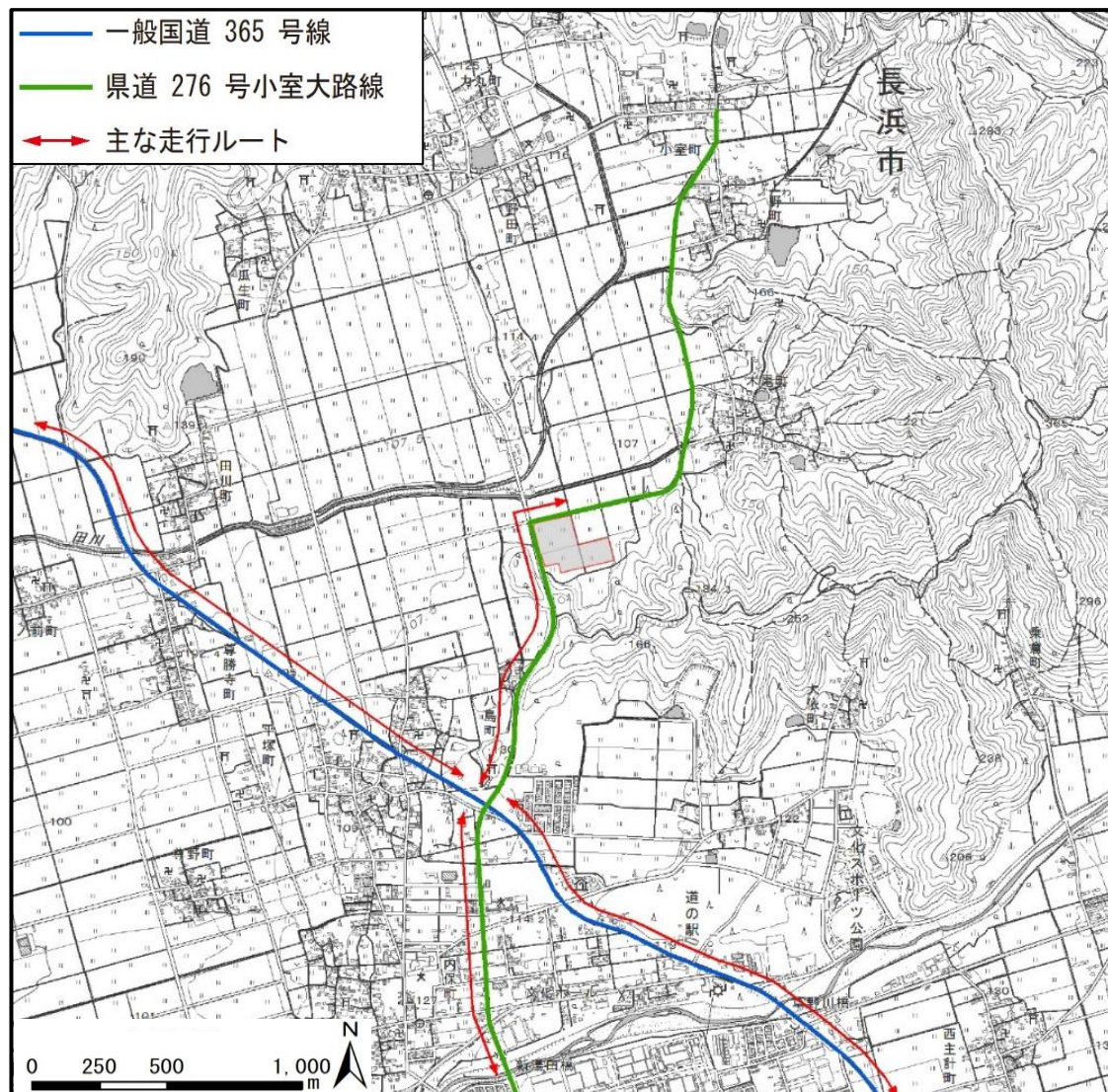
事業の目的・内容 施設整備計画の概要

項 目		焼却施設およびバイオガス化施設
処理方式		ストーカ式または、流動床焼却方式
処理能力 (施設規模)		145t/日 (72.5t/24時間稼働×2炉)
煙突高		59m
余熱利用		発電を行う計画。発電した電力は、リサイクル施設、汚泥再生処理センターおよび隣接する斎場等へ供給するほか、余剰電力は売電する。
排ガス処理設備		排ガスを冷却後、有害ガス除去装置（硫黄酸化物、塩化水素、ダイオキシン類）、バグフィルタ（ばいじん、水銀、ダイオキシン類）、脱硝設備（窒素酸化物）等を設置し処理する。
給水		上水道および地下水
排水設備	施設排水	下水排除基準以下になるよう適正に処理を行ったのち、公共下水道へ放流する。
	生活排水	
	雨水排水	調整池で流量を調整しながら公共用水域へ放流する。

新焼却施設に係る大気質の公害防止基準は以下のとおり。

項 目	本施設の 公害防止基準	現有施設（クリスタルプ ラザ）の公害防止基準	近年の平均的な 公害防止基準	本施設の 法規制基準値
ばいじん	0.01g/m ³ N以下	0.02g/m ³ N以下 ※法排出基準は 0.15g/m ³ N以下	0.01g/m ³ N	0.08g/m ³ N以下
硫黄酸化物 (SO _x)	30ppm以下	50ppm以下 (K値14.5以下)	30ppm	K値14.5以下 (約3,300ppm以下 相当)
窒素酸化物 (NO _x)	50ppm以下	125ppm以下	62ppm	250ppm以下
塩化水素 (HCl)	30ppm以下	100ppm以下	44ppm	700mg/m ³ N以下 ※430ppm以下
ダイオキシ ン類	0.1ng-TEQ/m ³ N 以下	0.1ng-TEQ/m ³ N以下 ※法排出基準は 5ng-TEQ/m ³ N以下	0.1ng-TEQ/m ³ N	1ng-TEQ/m ³ N以下 ※ガイドラインは 0.1ng-TEQ/m ³ N以下
水 銀	30μg/m ³ N以下	-	46μg/m ³ N	30μg/m ³ N以下

本事業に係る工事中の工事関係車両および供用後における廃棄物等の運搬車両は、主に、**県道276号小室大路線**および**一般国道365号**を走行するルートとなる。



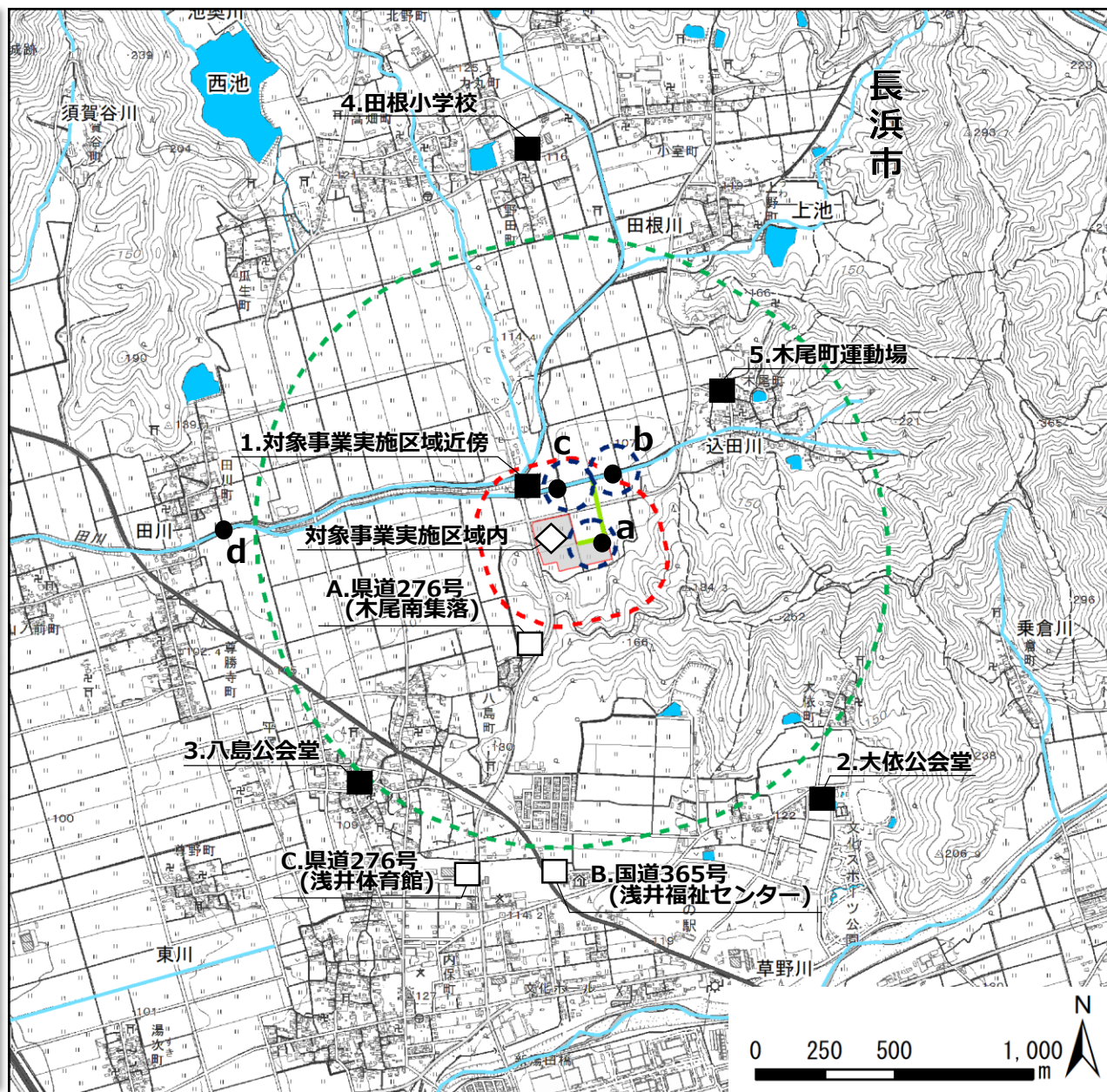
2. 環境影響評価の項目

環境影響要因 環境要素	予測・評価					
	工事の実施			存在・供用		
	土地の 改変	重機の 稼働	工事用車 両の走行	施設の 存在	施設の 稼働	施設関連 車両の走行
大気質		○	○		○	○
騒音		○	○		○	○
超低周波音					○	
振動		○	○		○	○
悪臭					○	○
水質	○					
動物	○	○				
植物	○					
生態系	○	○				
景観				○		
廃棄物等	○				○	
温室効果ガス		○	○		○	○
文化財	○			○		
伝承文化	○			○		

3. 現況調査(現地調査)

項目		年	令和1年				令和2年								令和3年					
		月	6	7	8	～	2	3	4	5	6	7	8	9	～	1	2	3	4	5
大気 質	地上気象・ 上層気象・ 大気質・現地 拡散実験						● 冬				● 春			● 夏		● 秋	現地拡散実験…冬・夏			
		通年観測(地上気象)																		
騒音・超低周波 音・振動															●					
悪 臭													●							
水 質							● 冬			● 春			● 夏		● 秋	その他…降雨時に3回				
動 物	哺乳類・鳥類・ 猛禽類・両生 類・爬虫類・昆 虫類・陸産貝類 魚類・底生動物	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●
		確認適季に調査																		
植 物	植物相								● 早春	● 春		● 夏			● 秋					
	植生												● 秋							
景 観							● 冬		● 春				● 夏		● 秋					

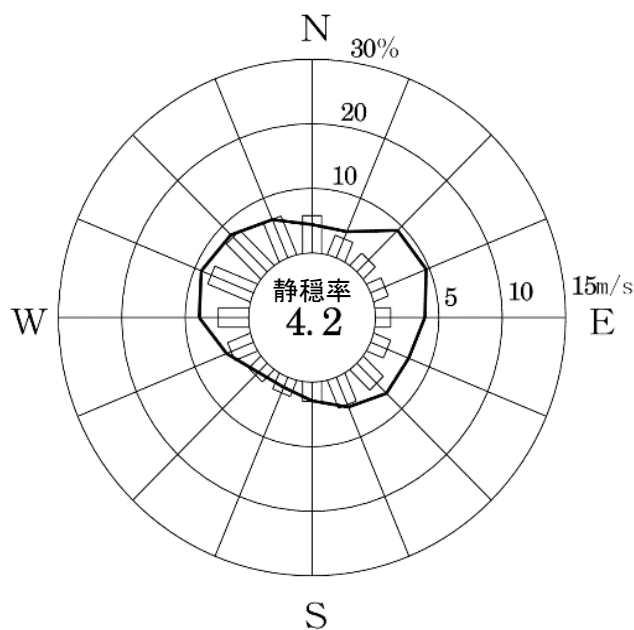
区分	凡例	項目
区域内	◇	地上気象
		上層気象
		騒音/振動/超低周波音
一般環境	■ (1~5)	大気質
		地上気象
		騒音/振動/超低周波音 (地点1のみ)
		悪臭
沿道環境	□ (A~C)	大気質(沿道環境)
		地上気象
		騒音/振動/交通量
その他	● (a~d)	水質
	○	動物(猛禽類除く)/ 植物相
	○	鳥類(猛禽類・コウノトリ)/ 植生/文化財/ 伝承文化
	○	魚類・底生動物



観測期間

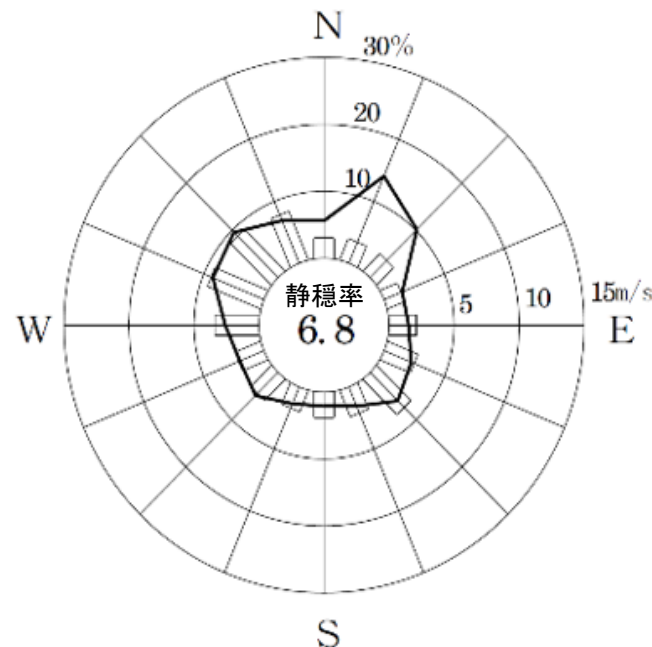
通年調査：令和2年2月1日（土）～ 令和3年1月31日（日）

四季調査：令和2年2月・5月・8月・11月 の各一週間



静穏：0.4m/s以下

観測高さ（地上10m）の風配図
（地上気象）



静穏：0.4m/s以下

観測高さ（地上60m）の風配図
（上層気象）

現地拡散実験の調査方法

実験方法： 想定煙突高度よりトレーサーガスを放出し、風下の捕集点で空気を吸引し、捕集管内に吸着したトレーサーガスを分析。

捕集地点： ガス放出地点の風下側30地点程度選定。



トレーサーガス放出に使用したクレーン



捕集機械



サンプルの採取・分析

測定地点	二酸化硫黄			二酸化窒素			降下ばいじん
	期間平均値 (ppm)	日平均値の 最高値 (ppm)	1時間値の 最高値 (ppm)	期間平均値 (ppm)	日平均値の 最高値 (ppm)	1時間値の 最高値 (ppm)	総量 (t/km ² /月)
1.対象事業実施区域 近傍	0.002	0.006	0.013	0.003	0.006	0.016	1.25
2.大依公会堂	0.002	0.006	0.012	0.003	0.007	0.014	1.13
3.八島公会堂	0.002	0.005	0.010	0.005	0.008	0.021	1.29
4.田根小学校	0.002	0.006	0.012	0.002	0.005	0.020	0.94
5.木尾町運動場	0.002	0.006	0.011	0.002	0.004	0.011	1.35
環境保全目標値	—	0.04	0.1	—	0.04~0.06 以下	—	20

測定地点	浮遊粒子状物質			塩化水素	ダイオキシン類	水銀
	期間平均値 (mg/m ³)	日平均値の 最高値 (mg/m ³)	1時間値の 最高値 (mg/m ³)	期間平均値 (ppm)	期間平均値 (pg-TEQ/m ³)	期間平均値 (μgHg/m ³)
1.対象事業実施区域 近傍	0.014	0.048	0.068	<0.001	0.0054	<0.004
2.大依公会堂	0.013	0.046	0.066	<0.001	0.0059	<0.004
3.八島公会堂	0.014	0.047	0.071	<0.001	0.0061	<0.004
4.田根小学校	0.014	0.046	0.071	<0.001	0.0066	<0.004
5.木尾町運動場	0.014	0.050	0.077	<0.001	0.0055	<0.004
環境保全目標値	—	0.10	0.20	0.02	0.6	0.04

地 点	時間 区分	騒音(dB)			振動(dB)		
		騒音レベル (L_{Aeq})		環境保全 目標値	振動レベル (L_{10})		環境保全 目標値
		平日	休日		平日	休日	
A.県道276号 (木尾南集落)	昼間	65	63	70	27	26	70
	夜間	54	52	65	25	25未満	65
B.国道365号 (浅井福祉セン ター)	昼間	71	70	70	37	32	70
	夜間	70	67	65	36	27	65
C.県道276号 (浅井体育館)	昼間	65	64	70	31	27	70
	夜間	56	56	65	26	26	65

生活環境項目（主な項目）

【代表地点の調査結果】

項目		単位	地点c込田川				地点a放流地点				環境保全 目標値
			冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	
生活環境項目	浮遊物質 量(SS)	mg/L	7	9	12	3	14	54	33	28	25
	全亜鉛	mg/L	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	0.008	0.006	0.006	0.006	0.03
	窒素	mg/L	0.48	0.51	0.31	0.43	0.92	0.93	0.99	0.99	—
	りん	mg/L	0.081	0.10	0.048	0.051	0.055	0.19	0.12	0.10	—

調査項目	確認種数 (重要な種数)	重要な種の例
哺乳類	7目12科16種 (3目3科3種)	 ツキノワグマ
鳥類 (猛禽類・コウノトリを含む)	15目37科78種 (10目23科35種)	 コチドリ
猛禽類・ コウノトリ	3目4科12種 (3目4科12種)	 コウノトリ
両生類・ 爬虫類	4目11科16種 (4目7科10種)	 ヤマトサンショウウオ
昆虫類	18目208科800種 (4目10科13種)	 コオイムシ

調査項目	確認種数 (重要な種数)	重要な種の例
陸産貝類	2目12科27種 (1目4科8種)	 ナガオカモノアラガイ
魚類	5目8科22種 (5目7科14種)	 ヤリタナゴ
底生動物	22目59科120種 (6目6科6種)	 キイロサナエ
植物	115科448種 (3科3種)	 カワヂシャ

注) 重要な種：天然記念物等に指定されている種、絶滅危惧種に該当する種

現地調査結果 現地調査の結果(植物・生態系)

植生

調査地域を占める割合

- ①水田 45%
- ②スギ・ヒノキ植林 16%
- ③コナラ群落 12%

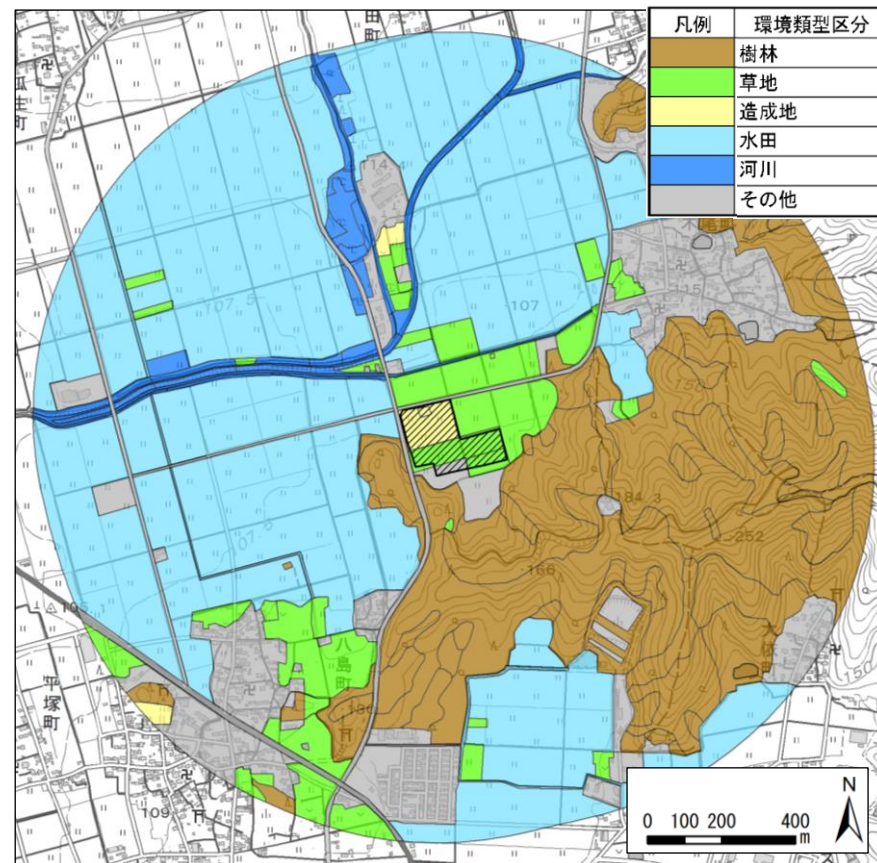
類型区分 (生態系)

植生の分布状況から「樹林」「耕作地・草地」「造成地」「水田」「河川」「その他市街地等」の6つの環境類型に区分した。

注目種 (生態系)

動植物の調査結果から、当地域の生態系の機能特徴づける注目種を選定した。

区分	種名
上位性	ホンドキツネ
	コウノトリ
	オオタカ
典型性	アカネズミ
	ヒヨドリ
	ヒバリ
	ナゴヤダルマガエル
	シマヘビ
	オオカマキリ
	キタキチョウ
	ミジンヤマタニシ
	ミナミメダカ
	ニンギョウトビケラ



類型区分図



樹林



水田

4. 影響の予測・評価

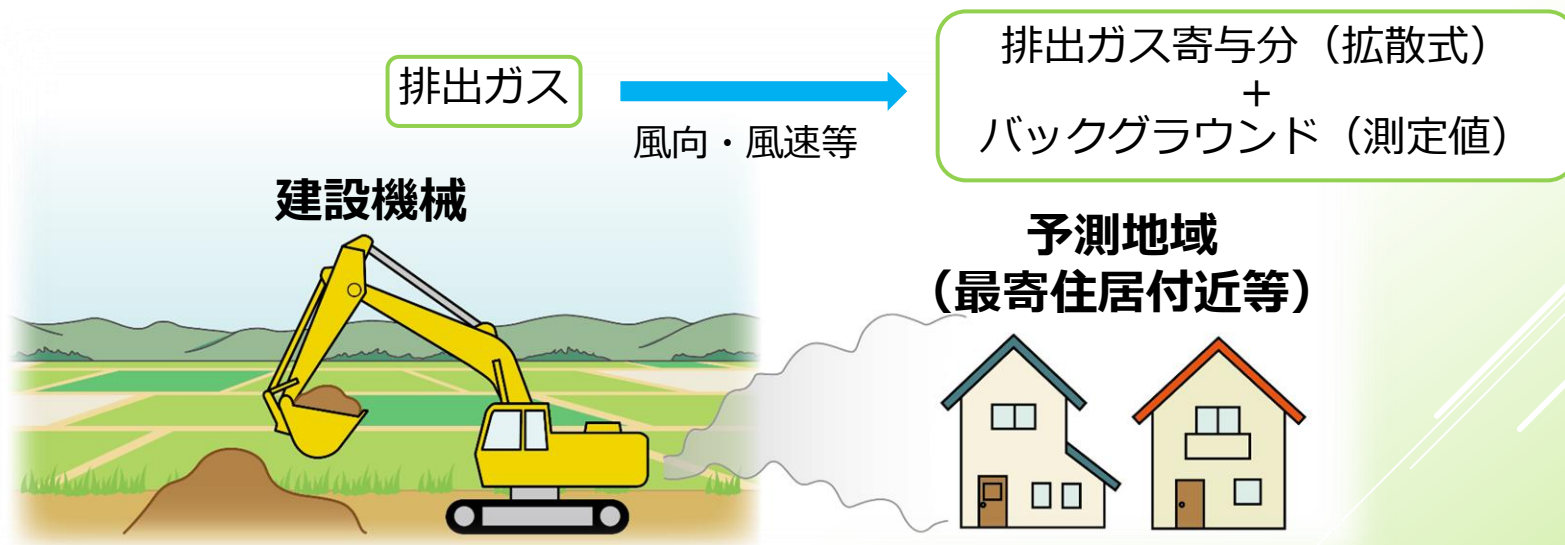
予測の概要

工事実施における重機（建設機械）の稼働に伴う、二酸化窒素および浮遊粒子状物質の年平均値を予測。

主な予測条件：気象条件（風向・風速・大気安定度）
工事計画（工事工程・建設機械の種類・稼働位置）

予測対象時期

建設機械の稼働による環境影響が最大となる時期



建設機械からの排出ガスの影響予測のイメージ

予測結果

[二酸化窒素]

[単位 : ppm]

地点名	予測結果(年平均値)	日平均値の年間98%値	環境保全目標値
1.対象事業実施区域近傍	0.004	0.014	0.04～0.06の ゾーン内または それ以下
2.大依公会堂	0.003	0.012	
3.八島公会堂	0.005	0.015	
4.田根小学校	0.002	0.010	
5.木尾町運動場	0.002	0.010	
最大着地濃度地点 (西側敷地境界)	0.013	0.029	

[浮遊粒子状物質]

[単位 : mg/m³]

地点名	予測結果(年平均値)	日平均値の年間2%除外値	環境保全目標値
1.対象事業実施区域近傍	0.014	0.036	0.10以下
2.大依公会堂	0.013	0.033	
3.八島公会堂	0.014	0.035	
4.田根小学校	0.014	0.035	
5.木尾町運動場	0.014	0.035	
最大着地濃度地点 (西側敷地境界)	0.015	0.037	

評価結果

基準・目標との整合性が図られている。

環境保全措置（後述）の実施により、影響の回避または低減が図られる。

予測の概要

工事用車両の走行および施設供用後の施設関連車両の走行による、二酸化窒素および浮遊粒子状物質の年平均値を予測。

主な予測条件： 気象条件（風向・風速）・道路条件・
交通条件（時間別交通量、車種構成比、
平均走行速度）・事業計画・工事計画

※全ての車両が各予測地点を走行すると仮定して予測。

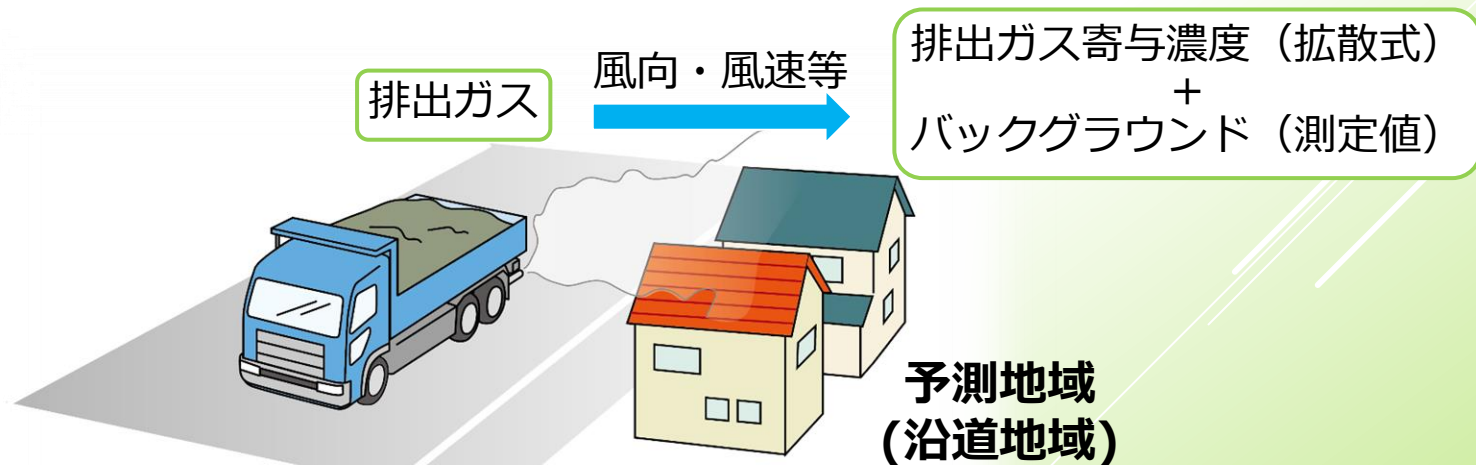
【予測に使用した車両台数】

区分	1日台数	
	大型車	小型車
工事用車両	94	208
施設関連車両	125	405

予測対象時期

工事用車両： 年間累計排出量が最大となる一年間

施設関連車両： 施設関連車両の走行による環境影響が最大となる時期



車両からの排ガス予測のイメージ

予測結果

[二酸化窒素]

[単位: ppm]

時期	予測地点	予測結果 (年平均値)	日平均値の 年間98%値	環境保全目標値
工事中	県道276号(木尾南集落)	0.005	0.019	0.04~0.06の ゾーン内または それ以下
	国道365号 (浅井福祉センター)	0.007	0.021	
	県道276号(浅井体育館)	0.005	0.020	

[浮遊粒子状物質]

[単位: mg/m³]

時期	予測地点	予測結果 (年平均値)	日平均値の 年間2%除外値	環境保全目標値
工事中	県道276号(木尾南集落)	0.014	0.037	0.10以下
	国道365号 (浅井福祉センター)	0.014	0.037	
	県道276号(浅井体育館)	0.014	0.037	

評価結果

基準・目標との整合性が図られている。

環境保全措置(後述)の実施により、影響の回避または低減が図られる。

予測結果

[二酸化窒素]

[単位: ppm]

時期	予測地点	予測結果 (年平均値)	日平均値の 年間98%値	環境保全目標値
供用後	県道276号(木尾南集落)	0.005	0.019	0.04~0.06の ゾーン内または それ以下
	国道365号 (浅井福祉センター)	0.007	0.021	
	県道276号(浅井体育館)	0.005	0.019	

[浮遊粒子状物質]

[単位: mg/m³]

時期	予測地点	予測結果 (年平均値)	日平均値の 年間2%除外値	環境保全 目標値
供用後	県道276号(木尾南集落)	0.014	0.037	0.10以下
	国道365号 (浅井福祉センター)	0.014	0.037	
	県道276号(浅井体育館)	0.014	0.037	

評価結果

基準・目標との整合性が図られている。

環境保全措置(後述)の実施により、影響の回避または低減が図られる。

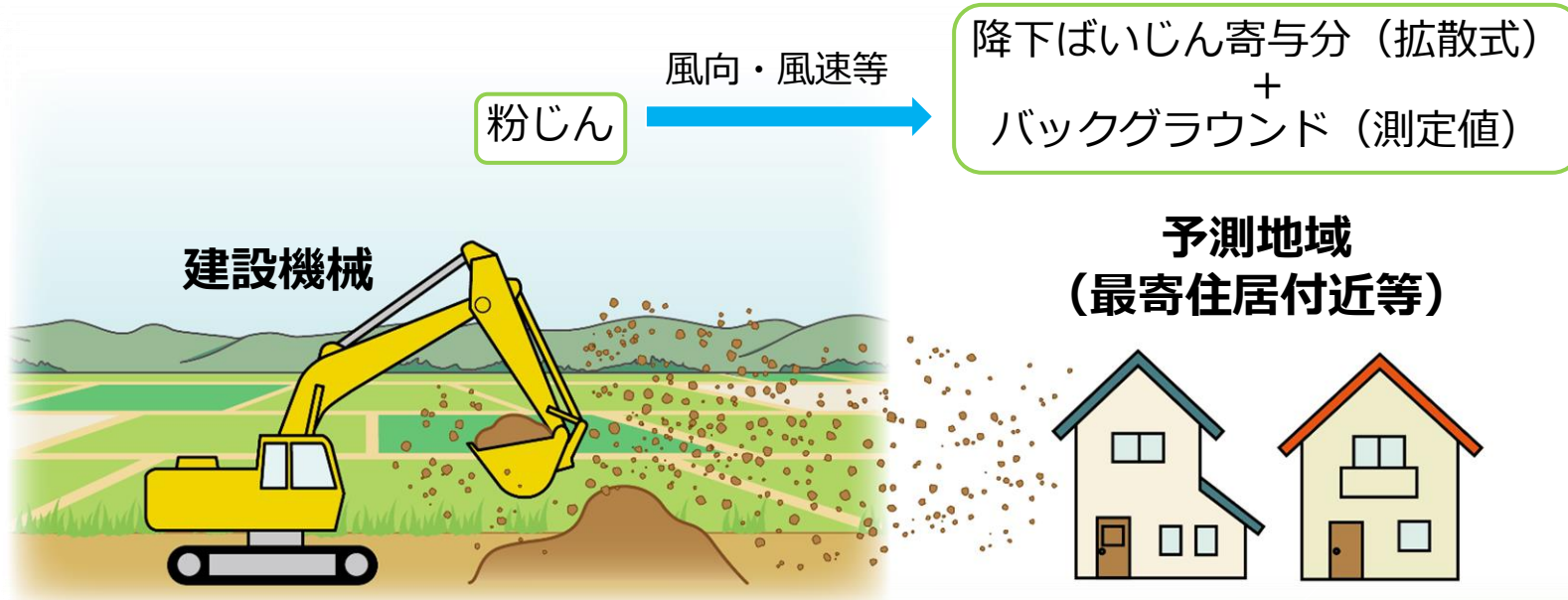
予測の概要

工事の実施における重機（建設機械）の稼働に伴う降下ばいじん（粉じん）の発生量を予測。

主な予測条件：気象条件（風向・風速）
工事計画（工事の種別・工事日数・施工面積）

予測対象時期

建設機械の稼働による粉じん等に係る環境影響が最大となる時期



建設機械からの粉じん予測のイメージ

予測結果

[単位: t/km²/月]

予測地点	時期	予測結果	環境保全目標値
1. 対象事業実施区域近傍	冬季	1.39	20以下
	春季	2.04	
	夏季	1.56	
	秋季	1.22	
2. 大依公会堂	冬季	1.62	
	春季	1.54	
	夏季	0.72	
	秋季	0.67	
3. 八島公会堂	冬季	1.55	
	春季	1.66	
	夏季	0.87	
	秋季	1.14	
4. 田根小学校	冬季	1.03	
	春季	1.36	
	夏季	0.66	
	秋季	0.75	
5. 木尾町運動場	冬季	1.29	
	春季	1.57	
	夏季	1.86	
	秋季	0.75	

評価結果

基準・目標との整合性が図られている。

環境保全措置（後述）の実施により、影響の回避または低減が図られる。

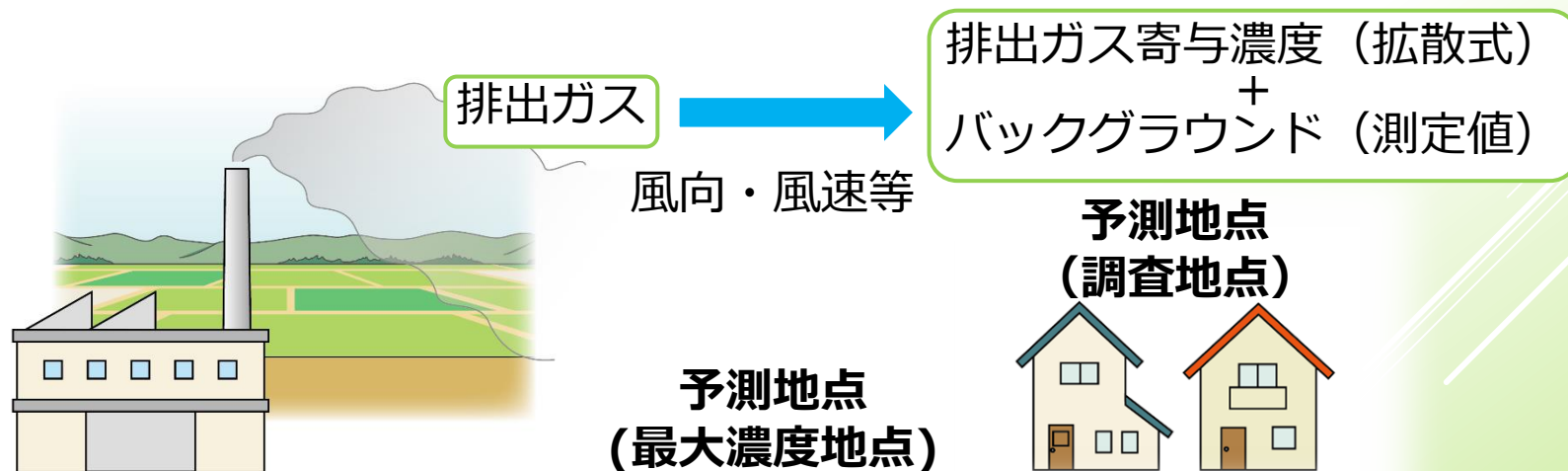
予測の概要

施設供用後の煙突排ガスによる大気質の年平均値および1時間値を予測。

主な予測条件：気象条件（風向・風速・大気安定度）、発生源条件（煙突排ガスの諸元・煙突の位置）、現地拡散実験

予測対象時期

施設の稼働が定常的となる時期



煙突排出ガスの影響予測のイメージ

煙突排出ガスの最大着地濃度地点は、事業実施区域南東側約400mの位置に出現すると予測される。



【長期濃度予測結果 (寄与分) [ダイオキシン類の例]】

予測結果

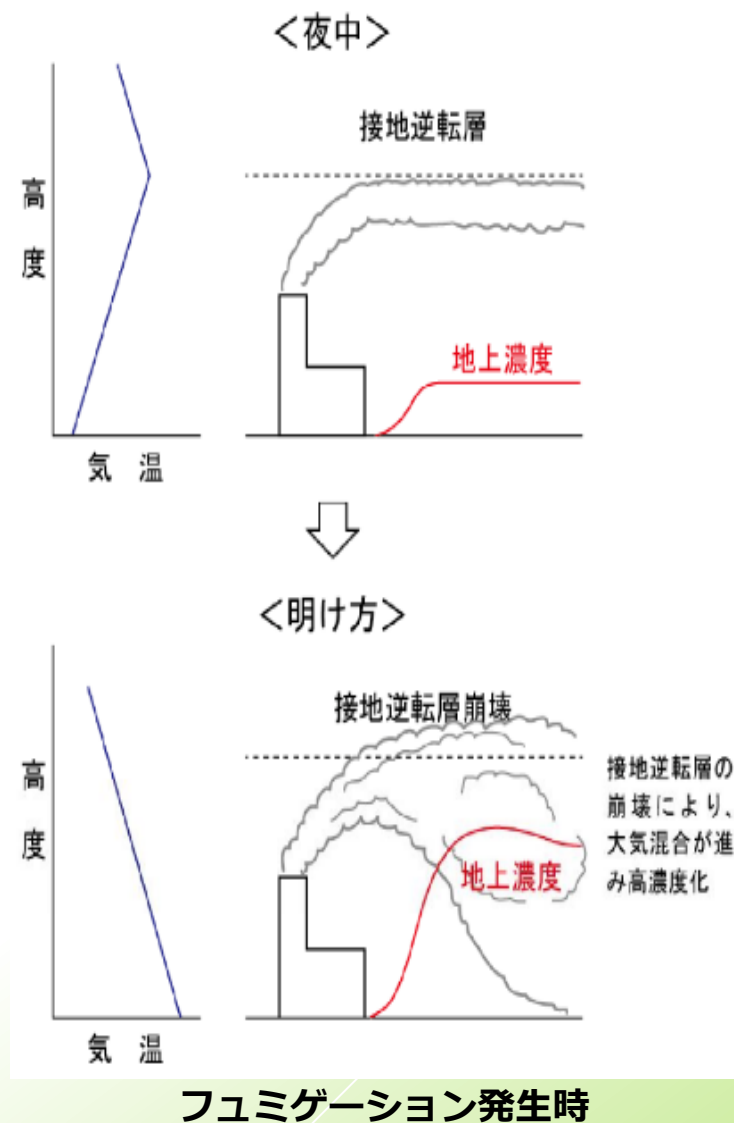
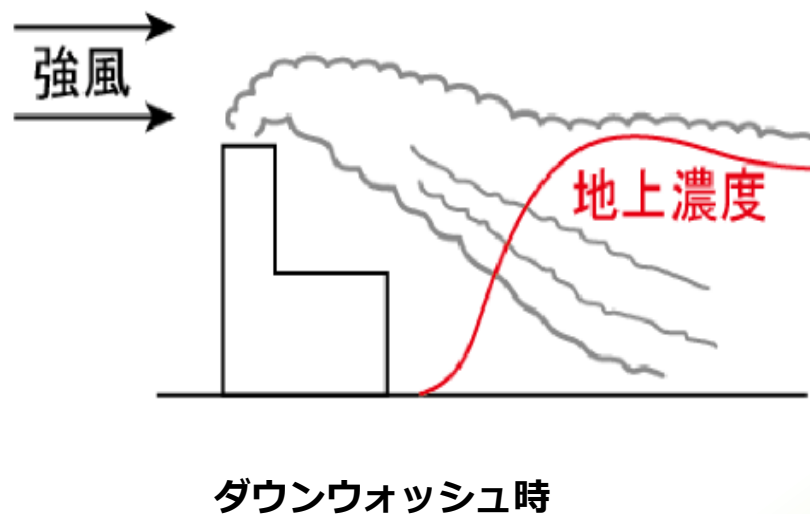
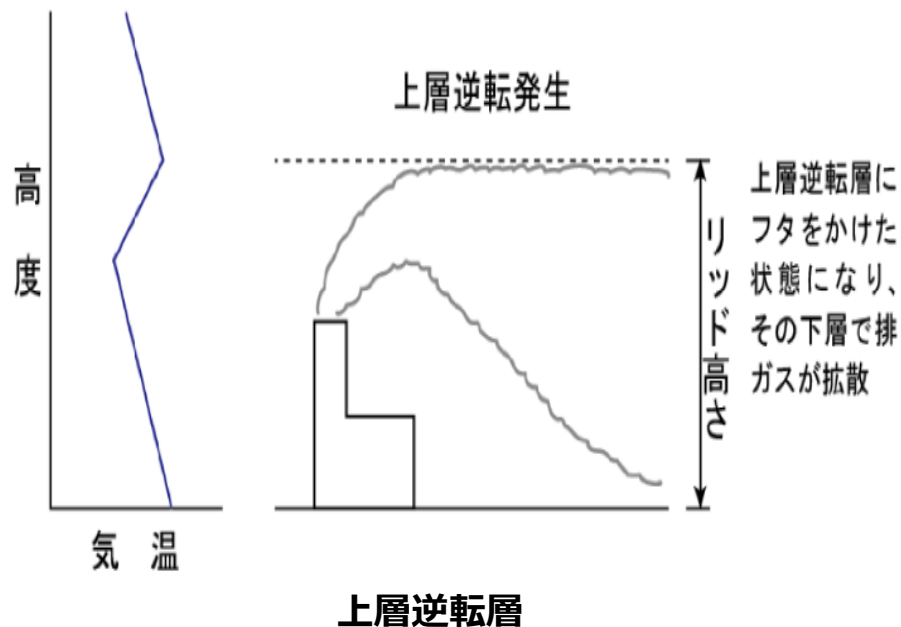
[長期濃度予測結果(最大着地濃度地点)]

項目(単位)	バックグラウンド濃度	予測結果 (年平均値)	予測結果 (日平均値)	環境保全 目標値
二酸化硫黄 (ppm)	0.002	0.003	0.006	0.04以下
二酸化窒素 (ppm)	0.005	0.006	0.0017	0.04以下
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.014	0.014	0.035	0.10以下
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0066	0.023		0.6以下
塩化水素(ppm)	0.001	0.002		0.02以下
水銀及びその化合物 (μgHg/m ³)	0.004	0.004		0.04以下

予測結果

[ダイオキシン類の長期濃度予測結果]

項目 (単位)	予測地点	年平均値			環境保全 目標値
		寄与濃度(A)	バックグラウンド濃度(B)	予測結果 (A)+(B)	
ダイオキシ ン類(pg- TEQ/m ³)	1.対象事業実施区域近傍	0.0026	0.0054	0.0080	0.6以下
	2.大依公会堂	0.00085	0.0059	0.0068	
	3.八島公会堂	0.00040	0.0061	0.0065	
	4.田根小学校	0.00037	0.0066	0.0070	
	5.木尾町運動場	0.0021	0.0055	0.0076	



予測結果

[短期濃度]

項目(単位)	予測結果(バックグラウンド+寄与濃度)				環境保全 目標値
	一般的な気象 条件	上層逆転層 発生時	ダウンウォッ シュ発生時	フュミゲーション 発生時	
二酸化窒素 (ppm)	0.020	0.023	0.020	0.024	0.1 以下
二酸化硫黄 (ppm)	0.051	0.058	0.055	0.034	0.1 以下
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.080	0.081	0.079	0.081	0.20以下
ダイオキシン類(pg- TEQ/m ³)	0.157	0.185	0.195	0.039	0.6 以下
塩化水素(ppm)	0.014	0.017	0.014	0.015	0.02以下
水銀及びその化合物 (μgHg/m ³)	0.0105	0.0128	0.0090	0.0198	0.04以下

評価結果

基準・目標との整合性が図られている。

環境保全措置（後述）の実施により、影響の回避または低減が図られる。

予測の概要

リサイクル施設の稼働に伴う粉じんの飛散の量による影響の程度を定性的に予測。

予測対象時期

施設が定常的な稼働となる時期

予測結果

類似施設の調査結果から粉じんの影響は生じていないことや、類似施設と同様の環境保全措置を講じることにより、影響は極めて小さいものと予測。

- ・ 類似施設と同様の構造である。
- ・ 本施設から最寄住居までの距離が類似施設より離れている。
- ・ 環境保全措置（後述）を講じる。

施設	調査地点	期間平均値	施設までの距離
類似リサイクル施設	敷地境界	0.020mg/m ³	－
	周辺民家地点	0.024mg/m ³	約100m
本リサイクル施設	最寄住居	－	約350m

評価結果

環境保全措置（後述）の実施により、影響の回避または低減が図られる。

予測の概要

工事実施による重機（建設機械）の稼働による騒音・振動、工事用車両の走行による騒音・振動および施設稼働に伴う騒音・超低周波音・振動を予測。

主な予測条件

工事中：建設機械の稼働条件（種類・稼働台数・位置・稼働時間・発生源の音響パワーレベル(L_{A5})・発生源の振動レベル）

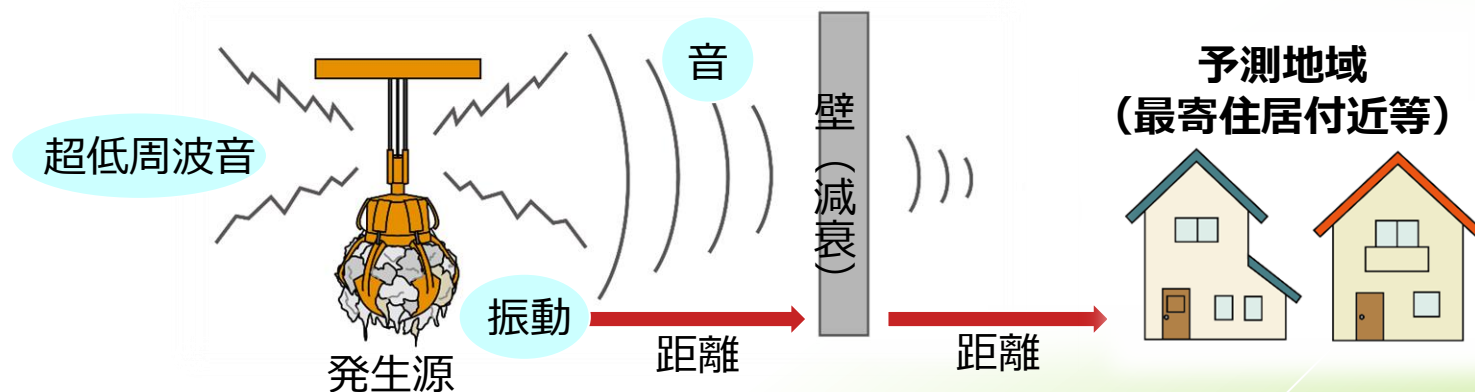
施設稼働：事業計画（発生源のパワーレベル・超低周波音レベル・振動レベル等）

予測対象時期

騒音（工事中）：建設機械の稼働等による騒音に係る環境影響が最大となる時期

振動（工事中）：建設機械の稼働等による振動に係る環境影響が最大となる時期

騒音・超低周波音・振動（施設稼働）：施設の稼働が見込まれる時期



施設の稼働時の騒音・超低周波音・振動の影響予測のイメージ

予測結果

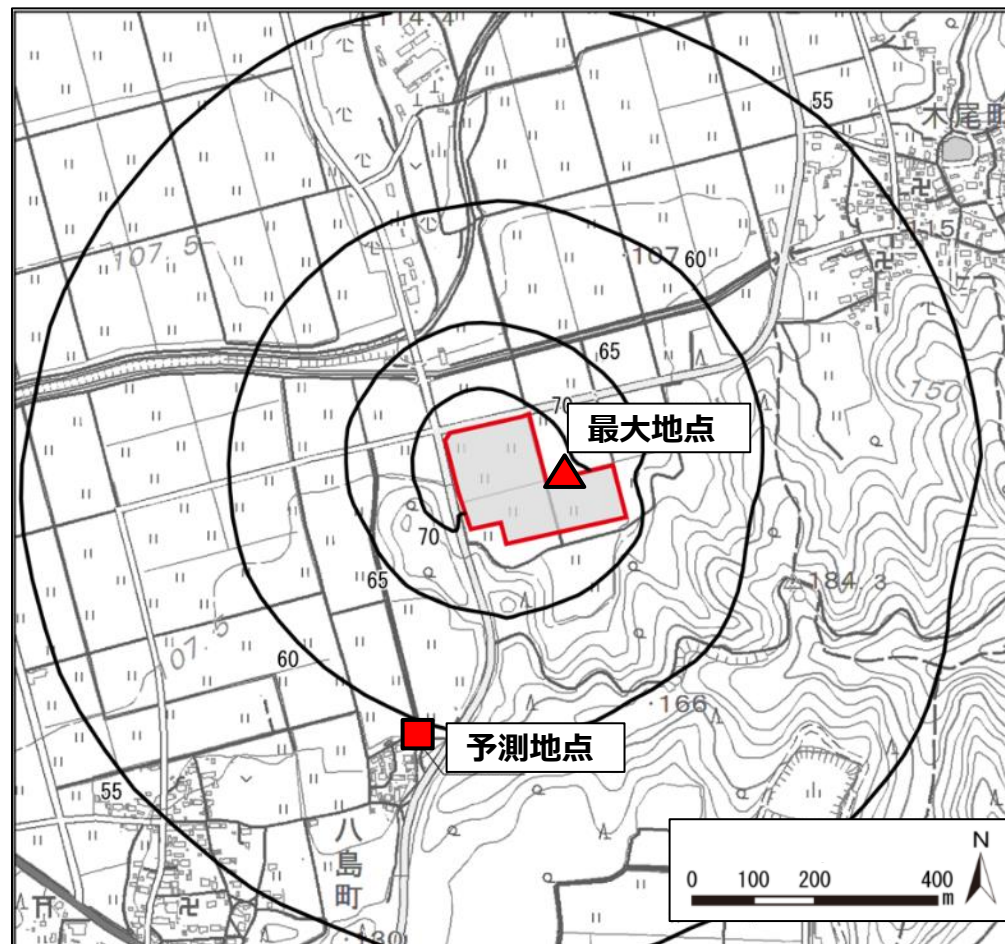
[建設機械の稼働]

予測結果(最大地点) (単位: dB)

最大地点	予測結果 (L_{A5})	環境保全目標値 (L_{A5})
東側敷地境界	71	85

予測結果(最寄住居) (単位: dB)

区分	寄与分 (L_{Aeff}) ①	現況値 (L_{Aeq}) ②	予測結果 (L_{Aeq}) (①+②)	環境保全 目標値 (L_{Aeq})
平日	54	43	54	55
休日	54	45	54	



工事中の騒音予測地点と最大地点位置

評価結果

基準・目標との整合性が図られている。

環境保全措置(後述)の実施により、影響の回避または低減が図られる。

予測結果

[施設の稼働]

予測結果(最大地点)

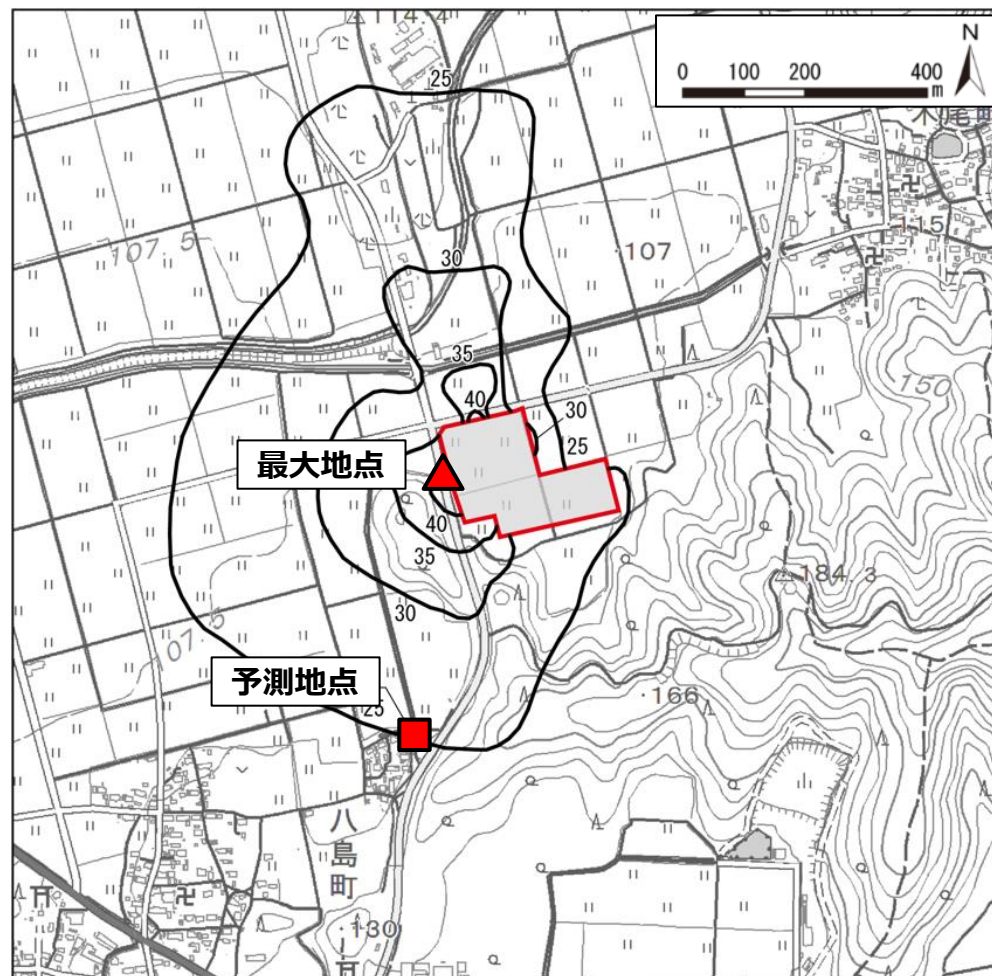
(単位: dB)

区分	最大地点	予測結果 (L_{A5})	環境保全目標値 (L_{A5})
朝	西側敷地 境界	44	50
昼間			55
夕			50
夜間			45

予測結果(最寄住居)

(単位: dB)

区分		寄与分 (L_{A5})	現況値 (L_{Aeq})	予測結果 (L_{Aeq})	環境保全 目標値 (L_{Aeq})
平日	昼間	25	43	43	55
	夜間		40	40	45
休日	昼間		45	45	55
	夜間		38	38	45



供用後の騒音予測地点と最大地点位置(昼間)

評価結果

基準・目標との整合性が図られている。

環境保全措置(後述)の実施により、影響の回避または低減が図られる。

予測結果

[建設機械の稼働]

【振動】

予測結果(最大地点)

(単位: dB)

最大となる地点	予測結果 (L_{10})	環境保全 目標値 (L_{10})
西側敷地境界	50	75

予測結果(最寄住居)

(単位: dB)

区分	寄与分 (L_{10}) ①	現況値 (L_{10}) ②	予測結果 (L_{10}) (①+②)	環境保全 目標値 (L_{10})
平日	25未満	25未満	28	55
休日	25未満	25未満	28	55



工事中の振動予測地点と最大地点位置

評価結果

基準・目標との整合性が図られている。

環境保全措置(後述)の実施により、影響の回避または低減が図られる。

予測結果

[施設の稼働]

【振動】 予測結果(最大地点) (単位: dB)

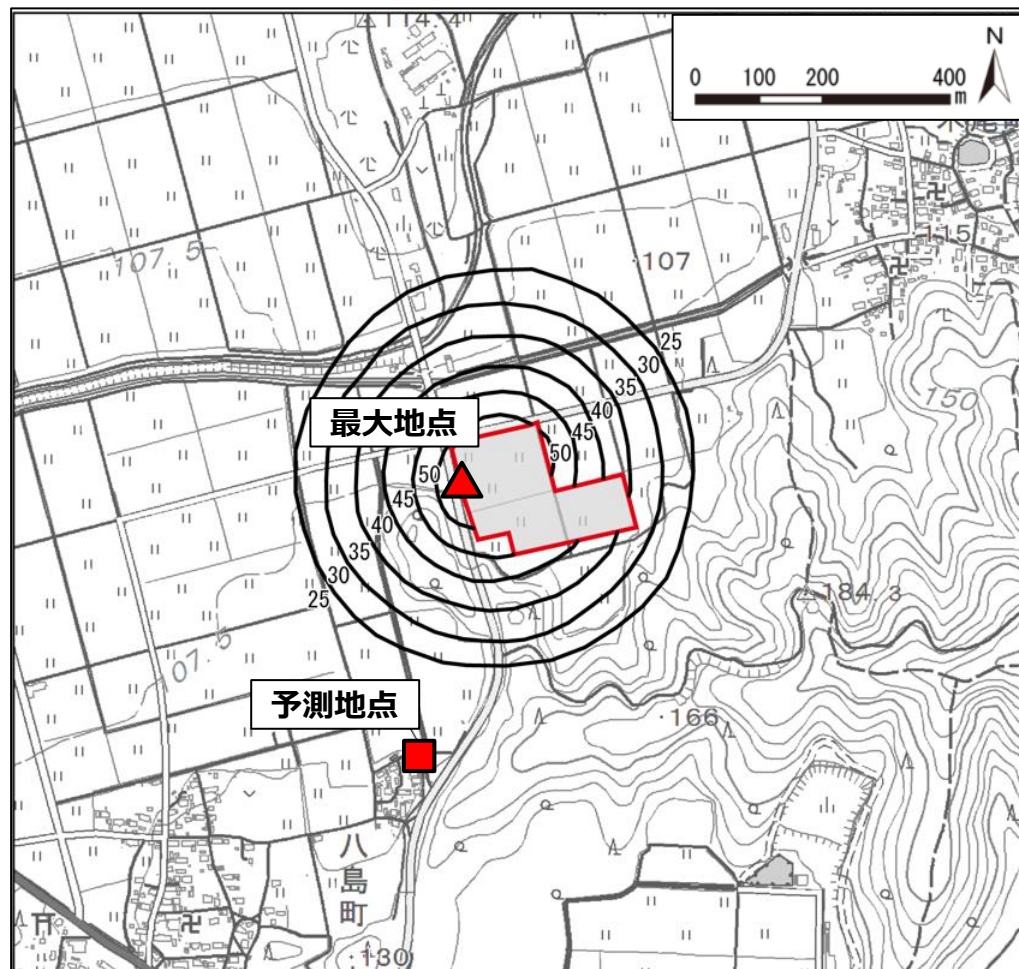
最大地点	区分	予測結果(L ₁₀)	環境保全 目標値(L _{A10})
西側敷地 境界	昼間	55	60
	夜間	54	55

予測結果(最寄住居) (単位: dB)

区分		予測結果(L ₁₀)	環境保全目標値 (L ₁₀)
平日	昼間	28	55
	夜間	28	
休日	昼間	28	
	夜間	28	

【超低周波音】 予測結果

予測地点	項目	予測結果 (dB)	環境保全 目標値 (dB)
西側敷地境界	L _G	91	92
最寄住居		64	



供用後の振動予測地点と最大地点位置(昼間)

評価結果

基準・目標との整合性が図られている。

環境保全措置(後述)の実施により、影響の回避または低減が図られる。

予測の概要

工事実施による工事用車両および施設供用による施設関連車両（パッカー車等）の沿道の騒音・振動レベルを予測。

主な予測条件：車両交通条件（交通量・走行速度）
交通増加台数

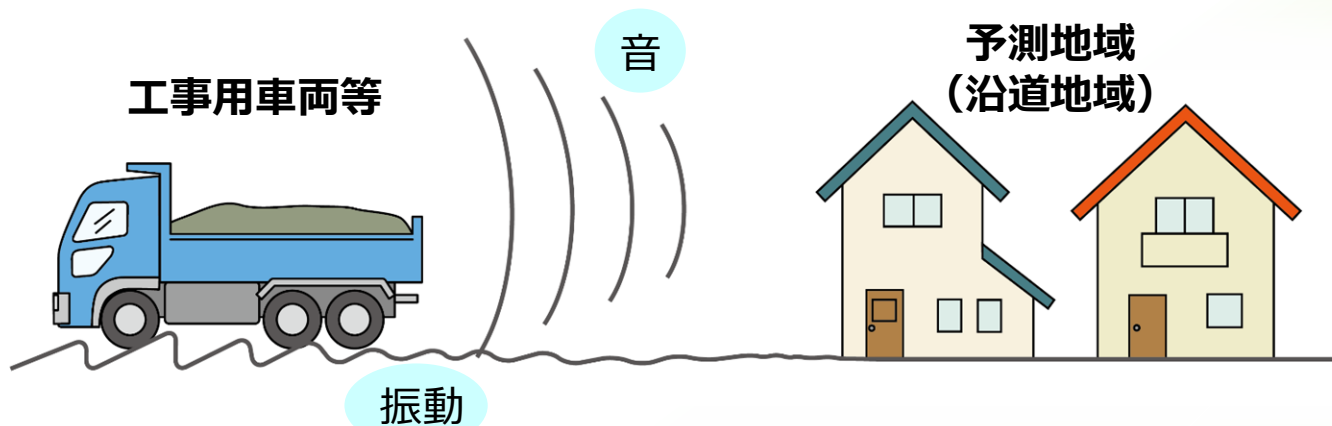
【予測に使用した車両台数】

区分	1日台数	
	大型車	小型車
工事用車両	126	280
施設関連車両	133	438

予測対象時期

工事中：工事用車両の運行による騒音・振動の影響が最大となる時期

供用後：施設関連車両の運行による騒音・振動の影響が最大となる時期



道路交通騒音・振動の影響予測のイメージ

予測結果(騒音・振動)

[騒音の予測結果]

[単位: dB]

時期	区分	予測地点	現況騒音レベル (L_{Aeq})	予測結果 (L_{Aeq})	環境保全 目標値	車両による 増加分
工事中	平日・ 休日	A.県道276号(木尾南集落)	63～65	65～66	70	1～2
		B.国道365号(浅井福祉センター)	70～71	70～71		0(1未満)
		C.県道276号(浅井体育館)	64～65	65～66		1
供用後		A.県道276号(木尾南集落)	63～65	65～67		2
		B.国道365号(浅井福祉センター)	70～71	70～71		0(1未満)
		C.県道276号(浅井体育館)	64～65	65～66		1

注1) 赤字は環境保全目標値を上回る結果を示している。

[振動の予測結果]

[単位: dB]

時期	区分	予測地点	現況振動レベル (L ₁₀)	予測結果 (L ₁₀)	環境保全 目標値	車両による 増加分
工事中	平日・ 休日	A.県道276号(木尾南集落)	26～29	34～35	昼間:65 夜間:60	5～9
		B.国道365号(浅井福祉センター)	34～38	35～38		0(1未満)～1
		C.県道276号(浅井体育館)	32～33	35～36		2～4
供用後		A.県道276号(木尾南集落)	27～29	33～37		4～10
		B.国道365号(浅井福祉センター)	34～38	35～38		0(1未満)～1
		C.県道276号(浅井体育館)	29～33	34～35		2～5

評価結果

基準・目標を一部上回るが、現況からの悪化はない。

環境保全措置(後述)の実施により、影響の回避または低減が図られる。

予測の概要

煙突排ガス：施設供用時の施設の稼働に伴う煙突排ガスによる大気質の1時間値を予測。

主な予測条件：気象条件（風向・風速・大気安定度）・発生源条件（煙突排ガス出口の諸元・位置、焼却施休止時の排出口の諸元）

予測対象時期

煙突排ガス：施設が定常的な稼働となる時期・施設の休炉時

予測結果

煙突排出ガスに伴う悪臭については、最大濃度地点において臭気指数は10未満であり、この値は本施設の環境保全目標値である臭気強度2.5（環境保全目標値相当）以下に該当すると予測される。

また、施設休炉時の排出口からの悪臭も同様と予測される。

評価結果

基準・目標との整合性が図られている。

環境保全措置（後述）の実施により、影響の回避または低減が図られる。

予測の概要

施設供用後の施設の稼働および施設関連車両の走行における悪臭の影響を定性的に予測。

予測対象時期

施設の稼働・施設関連車両の走行：施設が定常的な稼働となる時期

予測結果

供用後の施設の稼働に伴う悪臭の予測結果は、既存施設等の調査結果から臭気の漏洩は少なく、既存施設等と同程度以上の環境保全措置を講じることにより、影響は小さいものと予測。

また、供用後の施設関連車両の走行に伴う悪臭の予測結果は、既存事例の調査結果から臭気の漏洩は少ないことや、環境保全措置を講じることにより、影響は小さいものと予測。

評価結果

環境保全措置（後述）の実施により、影響の回避または低減が図られる。

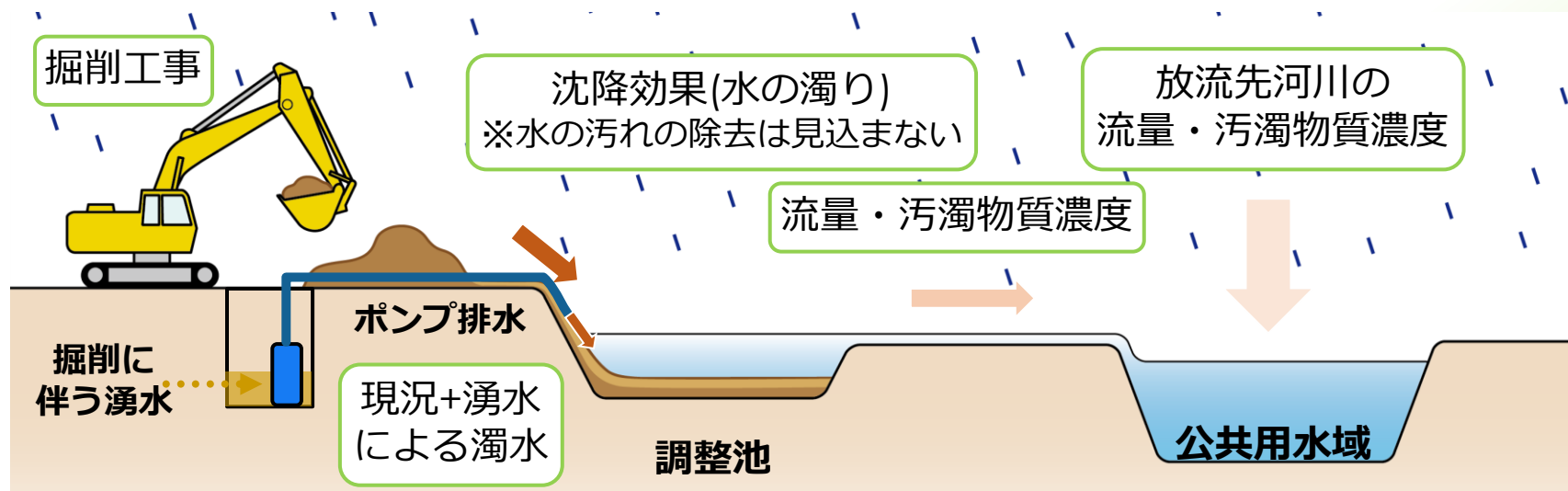
予測の概要

工事の実施における土地の改変に伴う水質の影響の予測。

主な予測条件 : 河川流量・水質、湧水量、湧水中の汚濁物質量（土壌溶出量調査結果）、
現地土壌の特性、調整池の表面積

予測対象時期

予測流域内における掘削工事に伴う濁水発生が最大となる時期



雨水の排水（濁水、水の汚れ）の影響予測のイメージ

予測結果（※込田川合流後の地点）

無降雨時は、全項目で環境保全目標値以下になると予測。

降雨時は、浮遊物質、りんについては環境保全目標値を上回るが、現況調査での平均値と同程度の濃度になると予測。



[地点cにおける濁水、水の汚れの予測結果]

	項目	予測結果 (mg/L) ^{注1)}	現況調査結果		環境保全目標値 (mg/L)
			平均値(mg/L)	変動幅(mg/L)	
降雨時	浮遊物質	30.6	30.7	9~43	25
	窒素	1.2	1.2	0.6~1.8	1
	りん	0.25	0.25	0.07~0.38	0.2
	全亜鉛	0.006	0.005	0.003未満~0.006	0.03
無降雨時	浮遊物質	8.2	8.0	3~12	25
	窒素	0.77	0.43	0.31~0.51	1
	りん	0.069	0.070	0.048~0.10	0.2
	全亜鉛	0.009	0.003未満	0.003未満	0.03

注) 赤字は環境保全目標値を上回る結果を示している。

評価結果

基準・目標を一部上回るが、現況調査結果の変動範囲内、かつ平均値と同程度の濃度となる。環境保全措置（後述）の実施により、影響の回避または低減が図られる。

予測の概要

工事の実施に伴う土地の改変による影響の程度を定性的に予測。

影響要因		予測対象時期	予測方法	
土地の改変	生息地の消失/縮小	土地の改変面積が最大となる時期	繁殖環境・生息環境の改変の程度を予測	
	水の濁り/汚れ	造成等の施工による土砂による水の濁り/汚れが最大となる時期	「水質」の予測結果をもとに生息環境の変化の程度を予測 (予測対象: 水路・河川に分布する種とそれらを餌とする種)	 
重機の稼働に伴う騒音		工事による騒音が最大となる時期	生息環境の静寂性の変化の程度を予測 (予測対象: コウモリ類、猛禽類、コウノトリ)	 

予測結果

影響を受ける（A）に該当する種はなかった。

予測結果概要	影響要因の区分		工事の実施	
	土地の改変		重機の稼働に伴う騒音	
	生息地の消失/縮小	水の濁り/汚れ		
影響を受ける(A)	該当なし	該当なし	該当なし	
影響は小さい(B)	6種	該当なし	該当なし	
影響は極めて小さい(C)	32種	31種	1種	
影響はない(D)	58種	該当なし	13種	
合計(予測対象種数)	96種	31種	14種	

予測結果

- ・ **生息地の消失/縮小**：改変区域で確認した6種は、生息環境の一部が消失するものの、周辺に同様の環境が広く残存することから「影響は小さい（B）」と予測。



- ・ **水の濁り/汚れ**：「水質」の予測結果から、水の濁り/汚れは、現況と同等あるいは環境保全目標値を満足することから、全予測対象を「影響は極めて小さい（C）」と予測。
- ・ **重機の稼働に伴う騒音**：今後、繁殖利用の可能性のある巣塔周辺の静寂性の変化は極めて小さいことから、コウノトリは「影響は極めて小さい（C）」と予測。
繁殖を確認した猛禽類は、巣の位置が十分に遠いことから「影響はない(D)」と予測。

評価結果

右表に示す環境保全措置を講じることにより、影響は回避または低減が図られるものと評価。

【動物の影響要因と環境保全措置】

影響要因	措置の種類
土地の改変 (生息地の消失/縮小)	地形改変の最小化 ナゴヤダルマガエル個体の移殖
土地の改変 (水の濁り/汚れ)	調整池の設置 調整池の浚渫 地下水湧出量の抑制 速やかな転圧等
重機の稼働（騒音）	低騒音型建設機械の採用

予測の概要

工事の実施に伴う土地の改変の影響の程度を定性的に予測。

影響要因		予測対象時期	予測方法
土地の改変	生息地の消失/縮小	土地の改変面積が最大となる時期	繁殖環境・生息環境の改変の程度を予測
	水の濁り/汚れ	造成等の施工による土砂による水の濁り/汚れが最大となる時期	「水質」の予測結果をもとに生息環境の変化の程度を予測 (予測対象:水路・河川に分布する種)



ミクリ



ミズマツバ



カワヂシャ

予測対象種 (重要な種)

予測結果

- ・ **生息地の消失/縮小** : 予測対象種 (ミクリ、ミズマツバ、カワヂシャ) はいずれも直接改変を受けず、「影響はない (D)」に該当。
- ・ **水の濁り/汚れ** : 予測対象種 (ミクリ) は、「影響は極めて小さい (C)」と予測。

評価結果

右表に示す環境保全措置を講じることにより、影響は回避または低減が図られるものと評価。

【植物の影響要因と環境保全措置】

影響要因	措置の種類
土地の改変 (水の濁り/汚れ)	調整池の設置
	調整池の浚渫
	地下水湧出量の抑制
	速やかな転圧等

予測の概要

工事の実施に伴う土地の改変の影響の程度を定性的に予測。

影響要因		予測対象時期	予測方法
土地の改変	生息地の消失/縮小	土地の改変面積が最大となる時期	注目種 : 繁殖環境・生息環境の改変の程度を予測 類型区分: 各区分の改変の程度を予測
	水の濁り/汚れ	造成等の施工による土砂による水の濁り/汚れが最大となる時期	注目種: 「水質」の予測結果をもとに生息環境の変化の程度を予測(予測対象: 水路・河川に分布する種)
重機の稼働に伴う騒音		工事による騒音が最大となる時期	注目種: 生息環境の静寂性の変化の程度を予測 (予測対象: 猛禽類、コウノトリ)

【生態系の指標種の予測結果と影響要因】

予測結果 (概要)

- ・ **類型区分** : 改変を受けるのは、比較的新しく人為の影響で出現した二次的な植物群落であり、自然度は低いことから、生態系の基盤環境への影響は極めて小さいと予測。
- ・ **注目種** : ナゴヤダルマガエルは「影響は小さい(B)」と、その他の種は「影響は極めて小さい(C)」あるいは「影響はない(D)」と予測。

評価結果

動物・植物で示した環境保全措置を講じることにより、影響は回避または低減が図られるものと評価。

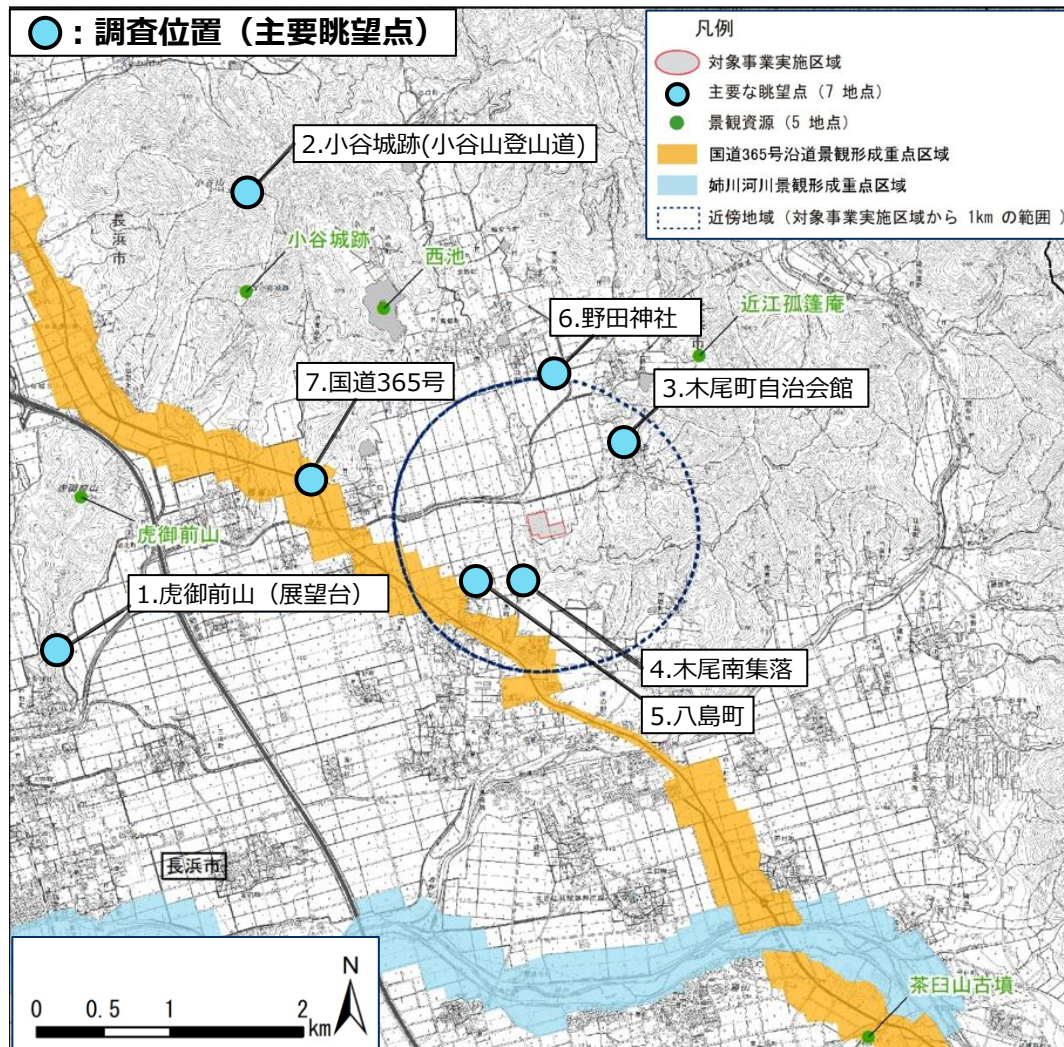
影響要因の区分 予測対象		土地の改変		重機の稼働に伴う騒音
		生息地の消失/縮小	水の濁り/汚れ	
上位性	ホンドキツネ	C		
	コウノトリ	C		C
	オオタカ	C		D
典型性	アカネズミ	C		
	ヒヨドリ	D		
	ヒバリ	C		
	ナゴヤダルマガエル	B		
	シマヘビ	C		
	オオカマキリ	C		
	キタキチョウ	C		
	ミジンヤマタニシ	D		
	ミナミメダカ	D	C	
	ニギョウトビケラ	D	C	

注) A: 影響を受ける B: 影響は小さい
C: 影響は極めて小さい D: 影響はない

予測の概要

施設供用後の施設の存在による眺望景観の変化の程度を予測。

No.	予測地点	調査地点の考え方
1	虎御前山	既存資料調査により把握した眺望点
2	小谷城跡	
3	木尾町自治会館	
4	木尾南集落	
5	八島町	
6	野田神社	
7	国道365号	景観形成重点区域



予測対象時期

施設の稼働が見込まれる時期

予測結果

全地点で影響は小さい・極めて小さいと予測。

評価結果

下表の環境保全措置を講じることにより、影響は回避または低減が図られるものと評価。

影響要因	措置の種類
施設の存在	周辺景観環境との調和 「長浜市景観まちづくり計画」に従った景観対応















予測の概要

工事の実施に伴う土地の改変、施設供用時の施設の稼働に伴う廃棄物等の影響を予測。

主な予測条件： 工事中：種類別廃棄物発生量、処理・処分および再利用の状況
供用後：種類別廃棄物発生量、処理・処分の状況

予測結果（工事中）

建築物	建設副産物発生量	処分内容
建設発生土	約21,400m ³	全量を埋戻土として場内利用とする。
建設混合廃棄物	約500t	再利用および再資源化に努めるとともに、残量は産業廃棄物処理業者へ委託し、適切に処分を行う。

予測結果（供用後）

施設	廃棄物等の種類	発生量(t/年)	処分内容
焼却施設	焼却灰・飛灰	約3,500	大阪広域臨海環境整備センター(最終処分場)に搬入し適切に処分を行う。
リサイクル施設	不燃物類	約1,200	不燃物類については、ウイングプラザ(最終処分場)等に搬入し、適切に処分を行う。

評価結果

環境保全措置（後述）の実施により、影響の回避または低減が図られる。

工事の実施に伴う重機（建設機械）の稼働、工事用車両の走行および施設供用後の施設関連車両による、温室効果ガス等の影響を予測。

工事中：建設機械の種類および稼働台数、稼働時間等、工事用車両の種類および走行台数
供用時：施設関連車両台数、ごみ焼却量、電力および燃料消費量等

供用時：施設関連車両台数、ごみ焼却量、電力および燃料消費量等

供用時に本施設から
20,401 tCO₂/年の温
室効果ガスが排出され
ると予測。

既存施設と比較すると、7,894tCO₂/年の温室効果ガス削減効果があると予測。

発生要因	既存施設 (tCO ₂ /年)		本施設 (tCO ₂ /年)	
	直接排出	間接排出	直接排出	間接排出
施設関連車両等の通行	—	2,629	—	2,406
ごみの焼却	23,263	—	21,391	—
機械等の稼働 (電気使用)	—	3,178	—	3,960
機械等の稼働 (燃料使用)	1,097	—	243	—
発電	—	—	—	-7,599
総計	30,168		20,401	
既存施設と本施設の差(削減効果)	-7,894			

温室効果ガスの削減のほか、環境保全措置（後述）の実施により、影響の回避または低減が図られる。

予測の概要

工事の実施に伴う土地の改変、施設供用後の施設の存在による文化財への影響を予測。

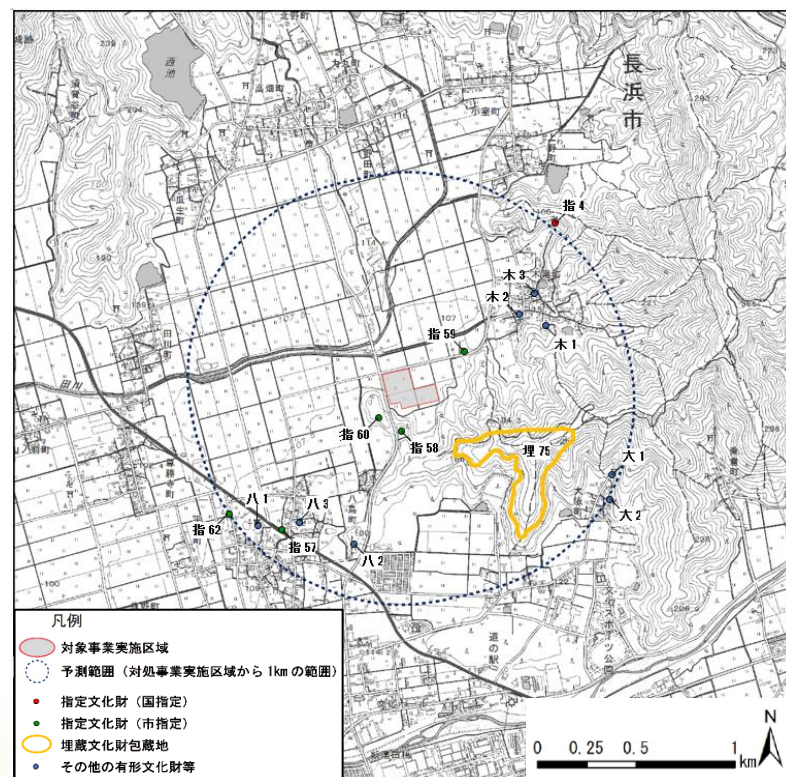
主な予測条件：有形文化財等の分布、文化財の内部（庭園等）からの眺望景観、対象事業の改変範囲、建屋の形状・意匠の方針、対象事業の緑化方針、アクセス道路利用計画

予測対象時期

土地の改変および施設の稼働が見込まれる時期

予測結果（土地の改変・施設の存在）

予測項目	予測結果
文化財の場合への直接改変の程度	直接改変はない。
文化財と一体となった周辺環境の状態変化	対象事業実施区域方向はほとんど眺望できないことから、影響は極めて小さい。
文化財の内部(庭園等)から見る風景の変化	文化財と一体となった周辺環境は保存されることから、影響は極めて小さい。
文化財へのアクセス特性の変化	既存の県道を利用することから、影響はない。



評価結果

環境保全措置（後述）の実施により、影響の回避または低減が図られる。

予測の概要

工事の実施に伴う土地の改変、施設供用後の施設の存在による伝承文化への影響を予測。

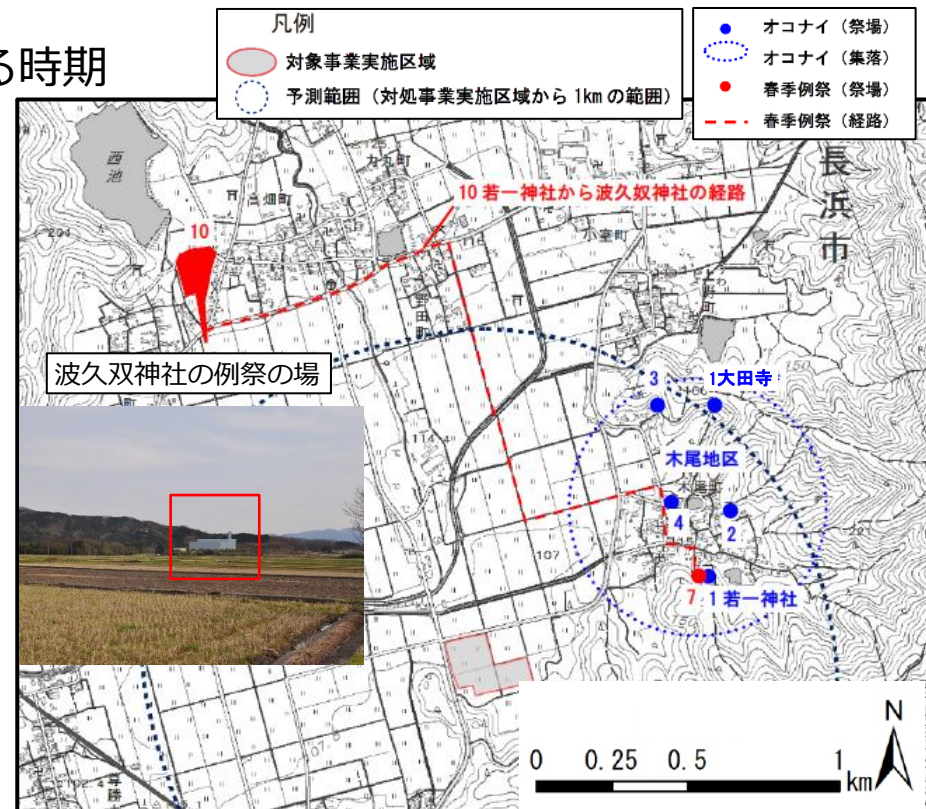
主な予測条件： 伝承文化の場の分布、伝承文化の場からの眺望景観、対象事業の改変範囲、建屋の形状・意匠の方針、対象事業の緑化方針、アクセス道路利用計画

予測対象時期

土地の改変および施設の稼働が見込まれる時期

予測結果 (土地の改変・施設の存在)

予測項目	予測結果
伝承文化の場への直接改変の程度	直接改変はない。
伝承文化の環境の状態変化	波久奴神社の例祭の場からの眺望景観の変化を予測した結果(フォトモンタージュ法)、眺望景観はわずかに変化するが、影響は小さい。
伝承文化へのアクセス特性の変化	文化財と一体となった周辺環境は保存されることから、影響は極めて小さい。



波久奴神社の例祭の場からの眺望景観の変化

評価結果

環境保全措置（後述）の実施により、影響の回避または低減が図られる。

5. 環境保全措置・事後調査

- 事業による影響があると予測される環境要素への対策のほか、事業の実施による影響を回避又は低減するため、以下に示す環境保全措置を実施する。
- なお、本環境影響評価で採用した予測の手法は、その予測精度に係る知見・事例等が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さいと考えられること、検討した環境保全措置の効果も知見が十分に蓄積されているものであることから、事後調査は実施しないこととした。

環境要素	区分		主な環境保全措置の内容
大気質 騒音 超低周波音 振動	工事中	建設機械の稼働	・ 排出ガス対策型建設機械の採用、建設機械の整備・点検、教育指導の実施、仮囲いの設置、散水の実施、敷鉄板の設置、低騒音/低振動型建設機械の採用、防音シート等の設置
		工事用車両の走行時	・ 運搬車両台数の低減、車両の維持管理、運転手の教育・指導、
	供用後	施設の稼働	・ 排ガス処理設備、運転管理の徹底、排ガス濃度等の情報公開、施設を建屋で囲う、除じん設備の設置、散水の実施、低騒音型設備機器の採用と配置、設備機器の維持管理、振動発生機器の配置
		廃棄物の搬入等	・ 施設関係車両台数の低減、車両の維持管理、運転手の教育・指導
悪臭	供用後		・ 排ガス処理、運転管理の徹底、脱臭設備の設置、臭気の高温分解、悪臭漏洩の防止、運転手の教育・指導、車両の維持管理、汚水タンク付き車両の使用

環境要素	区分	主な環境保全措置の内容
水質	工事中	・調整池の設置、調整池の浚渫、地下水湧出量の抑制、速やかな転圧等
動物 植物 生態系	工事中	・地形改変の最小化、指定希少種の保護、調整池の設置、調整池の浚渫、地下水湧出量の抑制、速やかな転圧等、低騒音型建設機械の採用
景観	供用後	・周辺景観環境との調和、「長浜市景観まちづくり計画」に従った景観対応
廃棄物等	工事中	・適正な処理および再利用、適正な処分、再資源化の促進
	供用後	・適正な処理および処分、ごみ分別・減量化の推進
温室効果 ガス等	工事中	・運転手の教育・指導、車両の整備・点検、運搬車両台数の低減、建設副産物の再利用、緑化の促進
	供用後	・エネルギー回収、運転手の教育・指導、ごみ分別・減量化の推進
文化財	工事中・供用時	・遺跡の不時発見時における文化財保護法対応、周辺景観環境との調和、「長浜市景観まちづくり計画」に従った景観対応
伝承文化	工事中・供用時	・周辺景観環境との調和、「長浜市景観まちづくり計画」に従った景観対応

6. 準備書の縦覧、意見書の提出 について

準備書の縦覧場所

- (1) 滋賀県 総合企画部 県民活動生活課県民情報室
- (2) 滋賀県 湖北環境事務所
- (3) 長浜市 市民生活部 環境保全課
- (4) 長浜市 浅井支所
- (5) 米原市 市民部 自治協働課
- (6) 湖北広域行政事務センター 事務局

※湖北広域行政事務センターホームページ上でも公表しています。

準備書の縦覧期間

令和3年5月21日(金)～令和3年6月21日(月) 各縦覧場所の執務時間内

意見書の提出方法・期間

- 1. 準備書について環境保全の見地から意見のある方は、意見書を提出することができます。
- 2. 意見書は、氏名、住所および対象事業の名称を記入の上、環境保全の見地からの意見をご記載ください。
- 3. 意見書の提出方法
 - ・ 縦覧場所に備え付けの意見箱への投函（縦覧期間中）
 - ・ 郵送または持参（湖北広域行政事務センター施設整備課まで）
- 4. 意見書の受付期間：令和3年5月21日(金)～令和3年7月5日(月)(郵送の場合は当日必着)

お問い合わせ先

湖北広域行政事務センター 施設整備課
〒526-0021 滋賀県長浜市八幡中山町200番地
TEL 0749-62-7146